

平成 23 年度 CDH 研究班 第 3 回班会議議事録

日 時 : 平成 23 年 12 月 10 日 (土) 10:00~15:00

場 所 : 新大阪丸ビル別館 9-3 号室

出席者 (13 名) : 稲村先生、臼井、奥山先生、金森先生、神山先生、塩野先生、高橋先生、田口先生、谷先生、永田先生、服部先生、早川先生、藤野先生 (五十音順)

1) 前回議事録の確認

- 平成 23 年 10 月 27 日開催の第 2 回班会議議事録案を確認し了承された。

2) 分担研究報告書について

- 事務局より、分担研究報告書の書式についての説明があり、Form を入れた CD-R が各担研究者に配布された。
- 各分担研究者の報告書は、研究テーマをひとつに絞ったうえで、締切を 1 月末日として記載していただき、原稿および成果一覧表を事務局までメールで送付していただくようお願いした。
- 第一論文を記載していただく九州大学の田口先生・永田先生には、研究内容が総括的であること、英文論文作成に集中していただく必要があることから、分担研究報告書の作成は行わず、臼井が中心に作成する総括研究報告書の共著者になっていただくことが提案され、了承された。

3) 各施設からの解析結果報告

1. 九州大学の永田先生から、本研究の第一論文である二次調査の概要に関する解析結果報告を” The current profile and outcome of congenital diaphragmatic hernia :The nationwide study in Japan” としてご報告いただいた。
 - ・論文のタイトル・内容・投稿の一応の期限・投稿雑誌などについて協議を行った。
2. 成育医療研究センターの金森先生から、「新生児横隔膜ヘルニアにおける手術所見がらみた重症度評価」についての解析結果をご報告いただいた。
 - ・欠損孔が大きいほど、また脱出臓器の種類が多いほど、重症度が高いという結果であった。報告書にまとめていただくが、英文論文にできるかどうかは、引き続き検討していただくこととなった。
3. 名古屋大学の早川先生から、一次調査に関する解析結果をワシントンでの学会 Hot topics の報告と合わせて” Nationwide Survey on the Current State of Congenital Diaphragmatic Hernias in Japan CDH” としてご報告いただいた。
 - ・現在、J Pediatrics を目指して論文執筆中であることが報告された。
4. 名古屋大学の服部先生から、「胎児 MRI 所見による予後の解析」について、ご報告いただいた。左側 CDH に関して、胎児 MRI の所見をスコア化することで、出生前に重症度が予測できることが報告された。
 - ・IF の高い英文雑誌を目指して論文執筆予定であることが報告された。
5. 成育医療研究センターの高橋先生から「本邦における右側先天性横隔膜ヘルニアの予後予測因子の検討」および「先天性心疾患合併先天性横隔膜ヘルニアの検討」についてご報告いただいた。右側横隔膜ヘルニアについては、出生前の因子として健側肺底部の MRI 所見が、出生後の因子として、Highest PaO₂、Lowest PaCO₂ が有用であることが報告された。

先天性心疾患を合併した先天性横隔膜ヘルニアでは、重症の心奇形合併が独立した危険因子であることが報告された。

6. 大阪府立母子保健総合医療センターの塩野先生より先天性心疾患合併が先天性横隔膜ヘルニアの予後に及ぼす影響についてご報告いただいた。軽症心奇形の合併は、CDHの予後に影響を及ぼさないが、重症心奇形+重症心外奇形合併例の予後は最も悪いことが報告された。
 7. 大阪府立母子保健総合医療センターの稲村先生より「先天性横隔膜ヘルニアにおける単純な予後要因としての動脈管血流方向の再評価」についてご報告いただいた。出生後24時間以内に施行された心エコーにおけるPDAの右→左優位シャントは、出生後の予後指標として有用であり、出生後の循環動態として、左心室の心拍出量が重要であることが報告された。
 8. 兵庫医科大学の奥山先生より「先天性横隔膜ヘルニアにおける待機手術 vs 早期手術の比較検討」をご報告いただいた。重症例・軽症例に分けて重症度をそろえて比較したところ、Ap 6以上の軽症例では早期(48hr以内)に手術を行った方が、治療期間が短縮されることが報告された。
 9. 大阪大学臼井より「出生後24時間以内の所見による先天性横隔膜ヘルニアのリスク層別化の試み」が報告された。多変量解析により、Oxygenation Index ≥ 7.5 と、Apgar 1' 0-5が代表的な予後不良の指標であり、この2つの因子の組み合わせで、予測予後グループがGroup A~Dに分類できることが報告された。
- 4) 二次調査の配布データに関する説明
 - 事務局より、配布された二次調査のデータについての説明があった。データ表の各項目についての意味や定義については、「項目の説明」ファイルを参照していただくよう説明があった。
 - 5) エクセル・統計ソフト(JMP)利用法
 - エクセルについては、オートフィルタについて。
 - JMPについては、チュートリアル：データタイプと尺度：一変量の分布：二変量の関係：生存時間分析(カプラン・マイヤー生存曲線)：決定木分析(decision tree survival tree)などについて事務局より説明があった。
 - 6) 学会発表・論文発表について
 - 学会発表の抄録応募に際しては、一つの学会に本研究班から同時に応募する演題を3題程度に制限することが提案された。また、抄録応募の際には、本研究班のメーリングリストを使って分担研究者に抄録を回覧して了承をいただくことを原則とすることが確認された。
 - 論文の共著者に含まれる範囲については、原則として「研究実施計画書」の22ページ「9. 研究結果の報告」に準拠することが確認された。
 - 可能であれば、第一論文のAcknowledgementには、二次調査への参加施設名全てを掲載してもらおうことを目指すが、それ以降の論文については、第一論文を引用することになるので、施設名は必ずしも掲載されなくてもよいのではないかという意見が出された。
 - 7) その他の報告事項：
 - 会計報告については、事務局から追って連絡予定であるが、現在残金が90万円程度あり、今

後の報告書の印刷費などの必要経費を含めても、各分担研究者が分担分の 15 万円を全額使用可能であることが報告された。

- 事務局から、分担研究費の使用に関しては、できれば平成 23 年 12 月中に使用の目途を付けていただきたいとの説明があった。
- 厚生労働科学研究費補助金、難治性疾患克服研究事業については、平成 24 年度から単一疾患単位での募集がなくなったため、本研究班の研究については、今年度をもって一旦終了することになった経緯が報告された。しかし、その代わりに先天性横隔膜ヘルニアを含む疾患群として、新たに「胎児・新生児肺低形成」に関する研究について応募し、もし採択された場合には、その分科会として、横隔膜ヘルニアの研究班を継続する予定であることが報告された。

以上

新生児横隔膜ヘルニアの重症度別治療指針の作成に関する研究班

会計報告

収入の部

直接経費	5,000,000
収入合計	5,000,000

支出の部

事務局経費

症例調査謝金（税込み）5000円×607件	3,035,000	
第一回班会議（会場費・旅費）	186,290	
第二回班会議（会場費・旅費）	61,990	
第三回班会議（会場費・旅費）	195,300	
印刷費（封筒・調査票）	66,150	
総括・分担報告書印刷・製本費	314,160	
郵送費	114,080	
文房具	8,743	
PCソフト	79,400	
抄録等英文校正費	7,024	
計		4,068,137

分担金経費

出張旅費・学会参加費	408,600	
書籍	144,976	
PCソフト	272,800	
文房具	92,137	
抄録等英文校正費	13,350	
計		931,863

支出合計	5,000,000	5,000,000
------	-----------	-----------

収支合計		0
------	--	---

一次調査協力施設（五十音順） 110 施設

愛仁会高槻病院
 愛染橋病院
 愛知県心身障害者コロニー中央病院
 あいち小児保健医療総合センター
 青森県立中央病院
 秋田大学医学部附属病院
 旭川医科大学病院
 旭川厚生病院
 安城更生病院
 茨城県立こども病院
 岩手医科大学医学部附属病院
 近江八幡市立総合医療センター
 大分県立病院
 大垣市民病院
 大阪市立総合医療センター
 大阪大学医学部附属病院
 大阪府立母子保健総合医療センター
 太田総合病院附属太田西ノ内病院
 大津赤十字病院
 沖縄県立中部病院
 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター
 加古川西市民病院
 鹿児島市立病院
 鹿児島大学病院
 金沢医科大学病院
 川崎医科大学附属病院
 関西医科大学附属枚方病院
 北九州市立医療センター
 北里大学病院
 北野病院
 岐阜県総合医療センター
 君津中央病院
 九州大学病院
 京都第一赤十字病院
 京都大学医学部附属病院
 杏林大学医学部附属病院
 近畿大学医学部奈良病院
 近畿大学医学部附属病院
 熊本市立熊本市市民病院
 熊本赤十字病院
 熊本大学医学部附属病院
 久留米大学病院
 慶應義塾大学病院
 県立広島病院
 神戸大学医学部附属病院
 国保松戸市立病院
 国立成育医療研究センター
 国立病院機構香川小児病院
 国立病院機構呉医療センター
 国立病院機構長良医療センター
 国立病院機構福山医療センター
 国立病院機構三重病院
 国立病院九州医療センター

埼玉医科大学総合医療センター
 埼玉医科大学病院
 佐賀県立病院好生館
 JA尾道総合病院
 自治医科大学とちぎ子ども医療センター
 島根県立中央病院
 順天堂大学附属練馬病院
 昭和大学病院
 聖マリアンナ医科大学病院
 聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院
 仙台赤十字病院
 千葉県こども病院
 千葉大学医学部附属病院
 筑波大学附属病院
 土浦協同病院
 東海大学医学部附属病院
 東京女子医科大学病院
 東京女子医科大学八千代医療センター
 東京大学医学部附属病院
 東京都立小児総合医療センター
 東京ベイ・浦安市川医療センター
 徳島大学病院
 鳥取大学医学部附属病院
 長崎大学病院
 長野県立こども病院
 名古屋第一赤十字病院
 名古屋大学医学部附属病院
 名古屋第二赤十字病院
 奈良県立医科大学附属病院
 新潟県立中央病院
 新潟市民病院
 新潟大学歯学総合病院
 日鋼記念病院
 日本赤十字社医療センター
 日本大学医学部附属板橋病院
 姫路赤十字病院
 兵庫医科大学病院
 兵庫県立こども病院
 兵庫県立塚口病院
 弘前大学医学部附属病院
 広島市立広島市民病院
 広島市立舟入病院
 深谷赤十字病院
 福岡市立こども病院・感染症センター
 福岡大学病院
 福島県立医科大学附属病院
 藤田保健衛生大学病院
 北海道大学病院
 北海道立子ども総合医療・療育センター
 三重大学医学部附属病院
 三重中央医療センター
 宮城県立こども病院
 宮崎大学医学部附属病院
 山形県立中央病院
 山形大学医学部附属病院
 淀川キリスト教病院
 和歌山県立医科大学附属病院

二次調査協力施設（五十音順） 72 施設

愛仁会高槻病院
愛染橋病院
愛知県心身障害者コロニー中央病院
旭川医科大学病院
茨城県立こども病院
近江八幡市立総合医療センター
大分県立病院
大垣市民病院
大阪市立総合医療センター
大阪大学医学部附属病院
大阪府立母子保健総合医療センター
太田総合病院附属太田西ノ内病院
大津赤十字病院
加古川西市民病院
鹿児島市立病院
鹿児島大学病院
金沢医科大学病院
川崎医科大学附属病院
関西医科大学附属枚方病院
北九州市立医療センター
北里大学病院
岐阜県総合医療センター
君津中央病院
九州大学病院
京都大学医学部附属病院
杏林大学医学部附属病院
近畿大学医学部奈良病院
近畿大学医学部附属病院
熊本市立熊本市市民病院
熊本大学医学部附属病院
久留米大学病院
慶應義塾大学病院
県立広島病院
神戸大学医学部附属病院
国保松戸市立病院
国立成育医療研究センター
埼玉医科大学総合医療センター
埼玉医科大学病院
佐賀県立病院好生館

自治医科大学とちぎ子ども医療センター
島根県立中央病院
昭和大学病院
聖マリアンナ医科大学病院
千葉大学医学部附属病院
筑波大学附属病院
土浦協同病院
東海大学医学部附属病院
東京女子医科大学八千代医療センター
東京都立小児総合医療センター
徳島大学病院
鳥取大学医学部附属病院
長崎大学病院
長野県立こども病院
名古屋大学医学部附属病院
奈良県立医科大学附属病院
新潟県立中央病院
新潟市民病院
新潟大学医歯学総合病院
日鋼記念病院
日本赤十字社医療センター
姫路赤十字病院
兵庫医科大学病院
兵庫県立こども病院
兵庫県立塚口病院
広島市立広島市民病院
福岡大学病院
福島県立医科大学附属病院
北海道大学病院
北海道立子ども総合医療・療育センター
三重大学医学部附属病院
宮城県立こども病院
宮崎大学医学部附属病院

二次調査協力施設英語施設名（都市名）（アルファベット順） 72 施設

Aichi Prefectural Colony Central Hospital (Kasugai)
Aizenbashi Hospital (Osaka)
Asahikawa Medical University Hospital (Asahikawa)
Chiba University Hospital (Chiba)
Fukuoka University Hospital (Fukuoka)
Fukushima Medical University Hospital (Fukushima)
Gifu Prefectural General Medical Center (Gifu)
Hiroshima City Hospital (Hiroshima)
Hiroshima Prefectural Hospital (Hiroshima)
Hokkaido Medical Center for Child Health and Rehabilitation (Sapporo)
Hokkaido University Hospital (Sapporo)
Hyogo College of Medicine College Hospital (Nishinomiya)
Hyogo Prefectural Kobe Children's Hospital (Kobe)
Hyogo Prefectural Tsukaguchi Hospital (Tsukaguchi)
Ibaraki Children's Hospital (Mito)
Japanese Red Cross Medical Center (Tokyo)
Japanese Red Cross Otsu Hospital (Otsu)
Japanese Red Cross Society Himeji Hospital (Himeji)
Jichi Children's Medical Center Tochigi (Shimono)
Kagoshima City Hospital (Kagoshima)
Kagoshima University Medical and Dental Hospital (Kagoshima)
Kakogawa West City Hospital (Kakogawa)
Kanazawa Medical University Hospital (Kahoku)
Kansai Medical University Hirakata Hospital (Hirakata)
Kawasaki Medical School Hospital (Kurashiki)
Keio University Hospital (Tokyo)
Kimitsu Chuo Hospital (Kisarazu)
Kinki University Hospital (Osakasayama)
Kitakyushu Municipal Medical Center (Kitakyushu)
Kitasato University Hospital (Sagamihara)
Kobe University Hospital (Kobe)
Kumamoto City Hospital (Kumamoto)
Kumamoto University Hospital (Kumamoto)
Kurume University Hospital (Kurume)
Kyorin University Hospital (Mitaka)
Kyoto University Hospital (Kyoto)
Kyushu University Hospital (Fukuoka)
Matsudo City Hospital (Matsudo)
Mie University Hospital (Tsu)

Miyagi Children's Hospital (Sendai)
Nagano Children's Hospital (Nagano)
Nagasaki University Hospital (Nagasaki)
Nagoya University Hospital (Nagoya)
Nara Hospital Kinki University Faculty of Medicine (Ikoma)
Nara Medical University Hospital (Kashihara)
National Center for Child Health and Development (Tokyo)
Niigata City General Hospital (Niigata)
Niigata Prefectural Central Hospital (Niigata)
Niigata University Medical and Dental Hospital (Niigata)
Nikko Memorial Hospital (Muroran)
Ogaki Municipal Hospital (Ogaki)
Ohta General Hospital (Koriyama)
Oita Prefectural Hospital (Oita)
Omihachiman Community Medical Center (Omihachiman)
Osaka City General Hospital (Osaka)
Osaka Medical Center and Research Institute for Maternal and Child Health (Izumi)
Osaka University Hospital (Suita)
Saga Prefectural Hospital Koseikan (Saga)
Saitama Medical Center (Kawagoe)
Saitama Medical University Hospital (Iruma)
Shimane Prefectural Central Hospital (Izumo)
Showa University Hospital (Tokyo)
St. Marianna University School of Medicine Hospital (Kawasaki)
Takatsuki General Hospital (Takatsuki)
Tokai University Hospital (Isehara)
Tokushima University Hospital (Tokushima)
Tokyo Metropolitan Children's Center (Fuchu)
Tokyo Women's Medical University Yachiyo Medical Center (Yachiyo)
Tottori University Hospital (Yonago)
Tsuchiura Kyodo General Hospital (Tsuchiura)
Tsukuba University Hospital (Tsukuba)
University of Miyazaki Hospital (Miyazaki)

二次調査にご協力いただいた先生方（順不同、敬称略） 72 施設 119 名

有賀裕道（太田総合病院附属太田西ノ内病院）、濱 郁子、中村知夫、萩原美佳、太崎友紀子（国立成育医療研究センター）、池田幸広（大津赤十字病院）、久野克也（加古川西市民病院）、生野 猛（佐賀県立病院好生館）、奥山宏臣（兵庫医科大学）、李 光鐘（熊本大学医学部附属病院）、青井重善（近江八幡市立総合医療センター）、浜田弘巳（日鋼記念病院）、児玉由紀（宮崎大学医学部附属病院）、飯田則利（大分県立病院）、片山哲夫（兵庫県立塚口病院）、藤巻英彦、一ノ橋祐子、邊見勇人、服部哲夫、伊藤美春（名古屋大学医学部附属病院）、高橋良彰、武本淳吉、藤澤空彦、永田公二、手柴理沙（九州大学大学院）、山田慎一（君津中央病院）、飯沼泰史（新潟市民病院）、秋山卓士、今治玲助、向井 亘（広島市立広島市民病院）、久松千恵子（神戸大学医学部附属病院）、長江秀樹（聖マリアンナ医科大学）、小松崎尚子（久留米大学医学部）、吉井大貴（熊本市立熊本市市民病院）、内田恵一、松下航平、橋本 清、小池勇樹、井上幹大（三重大学）、園田真理、馬場勝尚、田村 亮、橘木由美子、州尾昌伍、岡本光正、荒井洋志、尾藤祐子、中尾 真（兵庫県立こども病院）、大澄亜記（東京女子医科大学八千代医療センター）、牟田裕紀（川崎医科大学）、津川二郎（医療法人愛仁会高槻病院）、上田祐華、栗原 将（県立広島病院）、上野 滋（東海大学医学部外科学系）、石田和夫（日本赤十字社医療センター）、小角卓也、山内勝治（近畿大学医学部奈良病院）、増山宏明（金沢医科大学）、河野美幸、押切貴博、桑原 強、安井良僚（金沢医科大学）、伊勢一哉（福島県立医科大学医学部）、平澤雅敏（旭川医科大学）、窪田正幸（新潟大学大学院歯学総総合研究科）、井上成一朗、川崎秀徳（埼玉医科大学総合医療センター）、星野論子（筑波大学臨床医学系）、狩野元広、加藤源俊、有本篤弘、藤村 匠、富田紘史、高里文香（慶應義塾大学病院）、岡本晋哉、金城昌克、吉利エレナ（京都大学医学部附属病院）、野口啓幸（鹿児島市立病院）、林 信一（埼玉医科大学）、田中 潔（北里大学医学部）、町田水穂（長野県立こども病院）、平間敏憲（北海道立子ども総合医療・療育センター）、黒田征加（愛染橋病院）、谷 岳人（大阪府立母子保健総合医療センター）、加藤文英（島根県立中央病院）、大島雅之（長崎大学医学部歯学部附属病院）、向井 基（鹿児島大学医学部）、増本幸二（福岡大学）、河野芳功（岐阜県総合医療センター）、神山雅史（大阪大学医学部）、加藤純爾、新美教弘、田中修一、毛利純子（愛知県心身障害者コロニー中央病院）、三浦真澄、中川ふみ、堂本友垣、坂田晋史（鳥取大学医学部附属病院）、新井真理（東京都立小児総合医療センター）、前田貢作（自治医科大学とちぎ子ども医療センター）、銭谷昌弘（大阪市立総合医療センター）、中山智理（昭和大学病院）、本田昌平（北海道大学医学部）、新居育世（奈良県立医科大学附属病院）、内山昌則（新潟県立中央病院）、伊東真隆（大垣市民病院）、八木 誠（近畿大学医学部）、堀 哲夫（土浦協同病院）、照井慶太（国保松戸市立病院）、畠山理（姫路赤十字病院）、渡辺佳子（杏林大学病院）、矢内俊裕（茨城県立こども病院）、天江新太郎（宮城県立こども病院）、中田光政（千葉大学医学部）、森 大樹（徳島大学病院）、竜田恭介、廣瀬龍一郎、川久保尚徳（北九州市立医療センター）、高田晃平（関西医科大学附属枚方病院）

新生児横隔膜ヘルニアの重症度別治療指針の作成に関する研究班

区 分	氏 名	所 属 等	職 名
研 究 代 表 者	臼井 規朗	大阪大学大学院医学系研究科 小児成育外科	准 教 授
研 究 分 担 者	田口 智章	九州大学大学院医学研究院 小児外科学分野	教 授
	金森 豊	国立成育医療研究センター 臓器・運動器病態外科部外科	医 長
	奥山 宏臣	兵庫医科大学 小児外科	教 授
	早川 昌弘	名古屋大学医学部附属病院周産母子センター	講 師
	稲村 昇	大阪府立母子保健総合医療センター 小児循環器科	副 部 長
	藤野 裕士	大阪大学医学部附属病院 集中治療部	副 部 長
	高橋 重裕	国立成育医療研究センター周産期センター 新生児科	医 員
研 究 協 力 者	永田 公二	九州大学病院 総合周産期母子医療センター	助 教
	渡邊 稔彦	国立成育医療研究センター 臓器・運動器病態外科部外科	医 員
	濱 郁子	国立成育医療研究センター周産期センター 新生児科	医 員
	服部 哲夫	名古屋大学医学部附属病院周産母子センター	医 員
	伊藤 美春	名古屋大学医学部附属病院周産母子センター	病 院 助 教
	谷 岳人	大阪府立母子保健総合医療センター 小児外科	医 員
	塩野 展子	大阪府立母子保健総合医療センター 小児循環器科	診 療 主 任
	阪 龍太	兵庫医科大学 小児外科	病 院 助 手
	神山 雅史	大阪大学大学院医学系研究科 小児成育外科	助 教
事 務 局	臼井 規朗	大阪大学大学院医学系研究科 小児成育外科 〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 2-2 T E L 06-6879-3753 F A X 06-6879-3759 e-mail usui@pedsurg.med.osaka-u.ac.jp	
経理事務担当者	周防 孝	大阪大学大学院医学系研究科研究支援室 研究連携係 T E L 06-6879-3075 F A X 06-6879-3070 e-mail i-kenkyurenkei@office.osaka-u.ac.jp	

